（様式１）

令和5年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標	こころ豊かに健やかに 夢を抱いて未来を創造する生徒の育成 自ら学び 自ら考え 自ら行動		
推進主体	校長、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、教育課程担当、図書館教育担当を中心として推進		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況（国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む）	国語	○表現方法や漢字・言葉の意味など言語事項に関しては、おおむね習得できている。 ◆根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題がある。
		算数数学	○「図形」「関数」の領域においては、基礎的基本的な内容の習得がおおむね出来ている。 ◆ある条件下で成り立つ図形の性質を見出し、それが成り立つ理由を筋道を立てて考え、数学的表現を用いて説明することに課題がある。 ◆文章や図、表、グラフなどのテキストを理解し、利用し、熟考する力に課題がある。
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	◆全国学力・学習状況調査の結果から、ICT機器の使用は、授業や調べ学習において進んでいる一方、生徒同士の意見交換の場面では活用が進んでいない。アプリの使い方や効果的な使用場面などについて研究を重ねていきたい。
	定期テスト、単元テストなどによる状況（各教科）		○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ○基礎的基本的な内容についてはおおむね習得している。 ◆発展的な学習や論理的に考えて説明することに課題がみられる。 ◆効果的な家庭学習を行うために、自分で計画を立てて実行させると共に、補習や課題の提供を学校全体の取り組みとして充実させる等、生徒への支援を行う必要がある。
	授業等からうかがえる状況（各教科）		○落ち着いた学習態度で真面目に取り組んでいる。多くの生徒は課題に前向きに取り組み、提出物の意識も高い。 ◆家庭での学習習慣に一定程度の定着がみられてきたが、継続的な取り組みに課題が残る。日頃から予習、復習に主体的に取り組めるようにする必要がある。
学力向上に係る学習習慣・生活習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況		○全国学力・学習状況調査では、「読書が好き」の割合は目標に達した。1，2年生で取り組んでいる朝読書が、読書に親しむきっかけになっていると考える。 ◆30分以上読書する生徒の割合は低い。読書を活かした学習活動を充実させ、日常的に本を読む環境づくりへむけて工夫したい。
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況		○自己肯定感が高まり、夢や目標をもって前向きに生活しようとする生徒の割合が高くなっている。 ○「授業がわかりやすい」「学校生活が充実している」と肯定的に評価する生徒の割合は90%を超えている。 ◆「自分で計画を立てて学習している」の肯定的評価を高めるため、「学ぶことと自分の将来を結び付けて考えさせる」「学習に見通しを持たせて粘り強く取り組ませる」「適切な課題を提供し評価する」指導が必要である。
校内研究・研修の状況	校内研究の状況		○「深い学びに向かう力を養い、確かな学力を育成する学習指導」をテーマに研究を推進している。 ◆1年生から、働くことの意義や学ぶことと自分の将来を結び付けて考える機会を設ける等、系統的なキャリア教育を推進していく。
	校内研修の状況		○互見授業や研究授業を積極的に行うことで、教師が互いに学び合う体制を築き、校内全体でICT機器を活用した授業改善に取り組んでいる。 ◆iPadをどのような場面で、何を目的に活用するのか。特に、生徒同士の意見交換の場面での活用について研究していく。
家庭・地域・校種間連携	家庭・地域等の状況		○コミュニティ・スクールの取り組みを進める中で、学校に対する地域の関心が高まり、教育活動への協力・支援体制が整備されてきている。 ◆放課後や夏休みを利用した学習相談、適切な課題提供や学び方の指導を継続し、家庭学習の習慣化を図る必要がある。
	小・中における教科連携等の状況		○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの系統性や継続性を大切にした取り組みを進めている。 ○子どもの「学びのすがた」や「育ちのすがた」を共通理解して、積極的な交流が行えている。

4月			2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標 （指標となる数値等）	具体的な行動目標 （成果目標達成のための具体的な手立て等）	年度末評価 （今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
○わかるよろこびを実感できる学習指導の工夫と授業改善	○学校評価アンケートの「学習指導」の項目について、生徒の肯定的評価は９５％以上。保護者は９０％以上。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、ICT機器の使用は、授業や調べ学習において進んでいる。今年度は、生徒同士の意見交換の場面での活用の割合、１８％以上。	○「生徒が主体的に取り組む学習指導～義務教育９年間を通して、系統的・継続的な主体的、対話的な深い学びの研究～」を研究テーマとして、学習指導の工夫、授業改善や家庭学習の充実へ向けたアプローチに取り組む。 ○生徒が同学年だけでなく、学年を超えて共に学び合う場を設定し、互いに認め合う集団作りを進める。 ○互見授業を計画的に行うと共に、普段の授業研究を活発に行うことで、成長し続ける意欲を持った教師集団を作る。 ○iPadのアプリの使い方や効果的な使用場面などについて研究を重ねる。 ○「適切な課題を提供し評価」するよう指導と評価の一体化を図る。		
○主体的に学ぶ意欲を育てる学習相談の充実	○全国学力・学習状況調査の「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答する生徒の割合が７０％以上。 ○学習習慣アンケートの「30分以上読書する」生徒の肯定的評価の割合が２０％以上。	○全国学力・学習状況調査や日々の学習状況・生活状況の結果に基づいて、基礎・基本の知識や技能の習得に努め、カリキュラムマネジメントによる教科横断的な学びの充実を図る。 ○「学ぶことと自分の将来を結び付けて考えさせる」「学習に見通しを持たせて粘り強く取り組ませる」などの指導をする。 ○「がんばり学びタイム」や「兵庫型学習システム」を活用して、少人数のきめ細かな指導や個々のつまづきに応じた指導の充実を図る。 ○読書を活かした学習活動を充実させたり、日常的に本を読む環境づくりに向けた取組を行う。 ○1、2年は朝の10分間読書を継続して行い、読書習慣の定着を図る。		
○学校・家庭・地域の連携と協働の推進	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校の情報や生徒の活動の様子を、通信や学校HP、メールなどを通して保護者や地域へ発信する。 ○家庭や地域との連携と協働により、地域の祭りや防災訓練、奉仕活動等への中学生の参加を推進する。 ○コミュニティ・スクールの取組を進め、生徒や教職員が地域と交流・協働して、義務教育９年間を見通した人づくりに取り組む体制を整備する。		
○自尊感情・自己肯定感を育成し、自他ともに命と人権を基盤にした「豊かな心」を育成する教育の推進	○全国学力・学習状況調査の結果では、「自分には良い所があると思う」「失敗を恐れないで挑戦している」「人が困っている時は進んで助けている」「将来の夢や目標を持っている」と回答する割合が８０％以上。 ○個々の悩みや不安に対して早期に対応できるよう、各学期に教育相談を実施する。 ○人権講演会の実施、LGBTQや自殺予防教育について生徒の身近な問題として関心を高める機会や、保護者への啓発の場を設ける。	○責任感をもって積極的に取り組む姿勢を育てるために、生徒会活動、学級での係活動、各行事等において、一人一役を担う教育活動を継続し、自尊感情・自己肯定感を育成する。 ○授業をはじめすべての教育活動を通して、成功体験につながる機会を増やす。 ○家庭や地域と協働し、地域の祭りや防災訓練、奉仕活動等への中学生の参加を推進する。 ○小・中学校での学びを教職員で共有し、校内道徳・人権教育推進委員会を中心に、系統的・継続的な道徳の授業を行う。 ○各種調査及びアンケート、教育相談等で生徒の実態把握を行い、個々の生徒理解と学習や生活に関わる不安や悩みの解消に努める。		
○自分らしい生き方を実現する力を育てるキャリア教育の推進	○学校評価アンケートの「進路指導」の項目では肯定的評価の割合は、3年生が95%以上。 ○学習習慣アンケートの「夢や希望がある」の1、2年生の肯定的評価の割合が８０％以上。	○「トライやる・ウィーク」や「わくわくオーケストラ教室」の取組を充実させ、本物に出会う体験をもとに豊かな心や自ら考えて行動する力を育てる。 ○キャリアノートやキャリア・パスポートを活用し、1年生から、働くことの意義や学ぶことと自分の将来を結び付けて考える機会を設ける。また、体験活動や社会に触れる機会の充実を図る等、系統的・継続的なキャリア教育を推進して「基礎的・汎用的能力」と、自己の将来を描く「キャリアプランニング能力」の育成を図る。 ○進路情報を提供する機会を増やす。		
○育ちと学びの連続性を重視した学校園所連携教育及び小中一貫教育の推進	○学校評価アンケートの「学校生活は充実している」の項目では、肯定的評価、９０％以上。 ○学校園所連携の体制を基盤に小中一貫教育の推進体制を整備する。 ○6年生への体験授業や出前授業、生徒会制作の中学校紹介動画を見てもらうなど、中１ギャップの解消に努めていく。 ○義務教育９年間を見据えた教育課程を研究し、小中一貫教育を推進する。	○学習指導要領に基づく義務教育９年間を見通した学習指導を検討し、「確かな学力」の向上と定着をめざす。 ○生徒の課題を把握し、学校種や発達段階の違いから生じる子どもたちの不安や負担を軽減し、小学校から中学校への円滑な接続を図る。		